

東京都における新型コロナウイルス感染症の状況

経営企画局長 中川原米俊

1.1はじめに

令和2年1月24日に都内初の感染者が確認されてから、3年以上もの間、新型コロナウイルスとの闘いが続いている。

これまでの間、東京都健康長寿医療センターは、中等症及び重症患者の外來、入院受け入れや、宿泊療養施設への看護師派遣等、東京都の施策との連携を図りながら、積極的に取組を進めてきた。宿泊療養施設については、施設の開設直後の令和2年4月15日から看護師を中心とした運営支援を開始し、令和5年3月3日まで継続して実施してきた。

こうしたことを踏まえながら、「新型コロナウイルス感染症に係る東京都の取組 令和5年6月2日改訂版」の都の対策のステージに従い、

第Ⅰ期:令和2年1月～6月

(うち第1波 令和2年4月～5月)

第Ⅱ期:令和2年7月～10月

(うち第2波 令和2年7月～8月)

第Ⅲ期:令和2年11月～令和3年3月

(うち第3波 令和2年11月～令和3年3月)

第Ⅳ期:令和3年4月～10月

(うち第4波 令和3年4月～令和3年6月 第5波 令和3年7月～10月)

第Ⅴ期:令和3年11月～令和4年5月

(うち第6波 令和4年1月～5月)

第Ⅵ期:令和4年6～9月

(うち第7波 令和4年6月～9月)

第Ⅶ期:令和4年10月～令和5年5月

(うち第8波 令和4年10月～令和5年1月)

における新型コロナウイルス感染症の状況や東京都の取組等について、「新型コロナウイルス感染症に係る東京都の取組 令和5年6月2日改訂版」及び「東京都オープンデータカタログサイト データセット - 東京都オープンデータカタログサイト (tokyo.lg.jp)」を基に振り返り、以下にその概況を示す。

2.1 第Ⅰ期:令和2年1月～6月(うち第1波 令和2年4月～5月)

2.1.1 感染状況と主な対策

東京

最大感染者数:206人(4/17)

新規陽性者数(累計): 4,705人

死者数(累計):289人

全国

最大感染者数:644人(4/11)

新規陽性者数(累計):14,600人

死者数(累計):832人

(累計期間:令和2年4月1日～令和2年5月31日)

政府の緊急事態宣言

4月7日～5月25日

学校臨時休業

3月2日～5月31日

事業者への休業・時短要請

4月11日～6月18日

都庁に入院調整本部の設置 (4月～)

新型コロナ病床3,300床

(重症400床、中等症等2,900床)

宿泊療養施設の確保(令和2年4月国内初の取組)2,865床

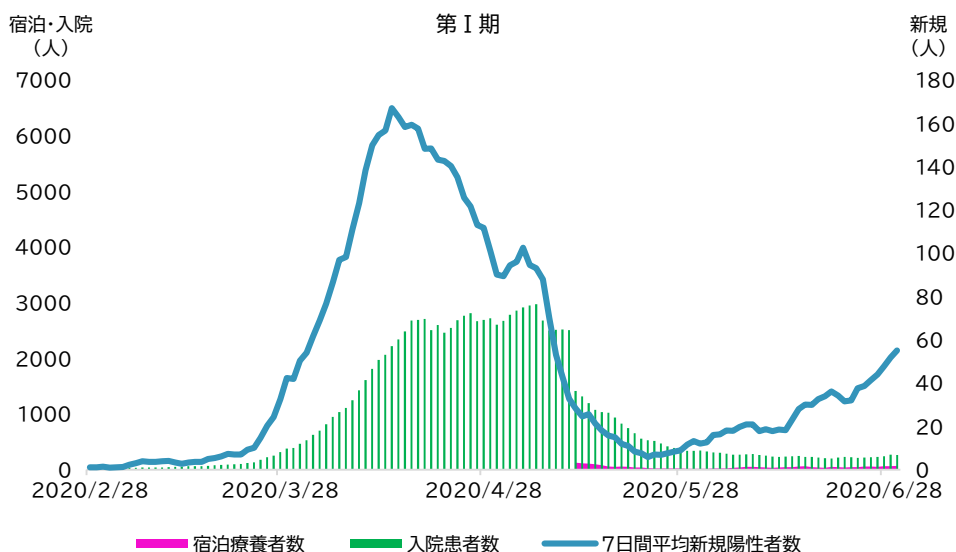


図1

2.1.2 概況

令和2年1月24日に都内初の感染者が確認された。飲食店等や医療機関等でクラスターが発生するとともに、感染経路不明な陽性者や濃厚接触者が増加し、保健所業務や、検疫、検査、医療提供体制が逼迫した。

感染拡大に伴い、医療用資器材の他、都民が使用するマスクも不足し、混乱が深刻化した。新型コロナウイルスに関する情報量が増加し、都民に不安が広がる中、新型コロナ受診相談窓口を設置、新型コロナウイルス感染症対策サイトを開設し、都民への正しい知識と情報の提供を行った。また4月から、「アドバイザー」による感染状況と医療提供体制の分析を開始した。

令和2年4月、東京都は、国内初となる宿泊療養施設を中央区内に開設し運営を開始。計5施設の運営を行い、総部屋数2,865室、総受入可能室数

1,200室の体制を同年6月末まで維持した。

2.2 第Ⅱ期 令和2年7月～10月(うち第2波 令和2年7月～8月)

2.2.1 感染状況と主な対策

東京

最大感染者数: 472人(8/1)

新規陽性者数(累計):14,589人

死者数(累計): 38人

全国

最大感染者数:1,597人(8/7)

新規陽性者数(累計):49,354人

死者数(累計):322人

(累計期間:令和2年7月1日～令和2年8月31日)

事業者への時短要請

8月3日～9月15日

新型コロナ病床2,640床

(重症150床、中等症2,490床)確保

宿泊療養施設の拡大(3,044室)

自宅療養者 フォローアップセンターの設置

東京都発熱相談センターの開設

モニタリング会議の設置、第1回モニタリング会議の開催(7月9日)

東京iCDC(東京感染症対策センター)の創設(10月1日)

2.2.2 概況

いわゆる夜の街を中心とした感染、特に若者への感染が急速に拡大し、7月からの第1波を超える新規陽性者発生で、保健所業務がさらにひっ迫した。

都は、令和2年7月に東京都新型コロナウイルス感染症モニタリング会議を設置し、専門家による感染状況や医療提供体制の分析に基づくコメントの公表を開始した。また、同年10月に東京iCDCを立ち上げ、専門家ボード等を設置し、専門的な観点から調査・分析、情報収集・発信等を開始した。

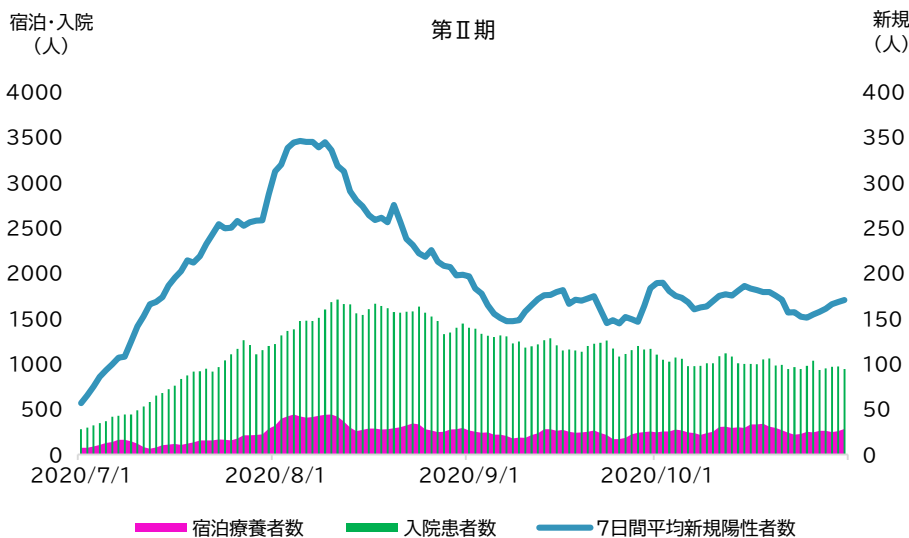


図2

2.3 第Ⅲ期 令和2年11月～令和3年3月(うち第3波 令和2年11月～令和3年3月)

2.3.1 感染状況と主な対策

東京

最大感染者数:2,520人(1/7)

新規陽性者数(累計): 89,904人

死者数(累計):1,315人

全国

最大感染者数:8,045人(1/8)

新規陽性者数(累計):372,537人

死者数(累計):7,394人

(累計期間:令和2年11月1日～令和3年3月31日)

政府の緊急事態宣言

1月7日～3月21日

事業者への時短要請

11月28日～4月24日

コロナ病床5,048床

(重症332床、中等症4,716床)確保

宿泊療養施設の拡大(2,800室)

診療・検査医療機関を指定(約3,400か所)

回復期支援病院への支援を開始

夜間入院調整窓口を開設

フォローアップセンターの対象範囲を都全域に拡大

自宅療養者パルスオキシメーターの配付を開始

医療従事者へのワクチン接種開始(3月4日)

2.3.2 概況

第3波では、年末年始の帰省やイベントにより、会食機会が増加し、新規陽性

者、重症者ともに第1、2波と比べ大幅に増加した。家庭内感染も増加し、重症化リスクの高い高齢者の新規陽性者が増加して医療提供体制を圧迫した。

都は、自宅療養者への支援体制を強

化するとともに、医療従事者へのワクチン接種の開始やワクチンチームを発足する等ワクチン接種の体制づくりを進めた。

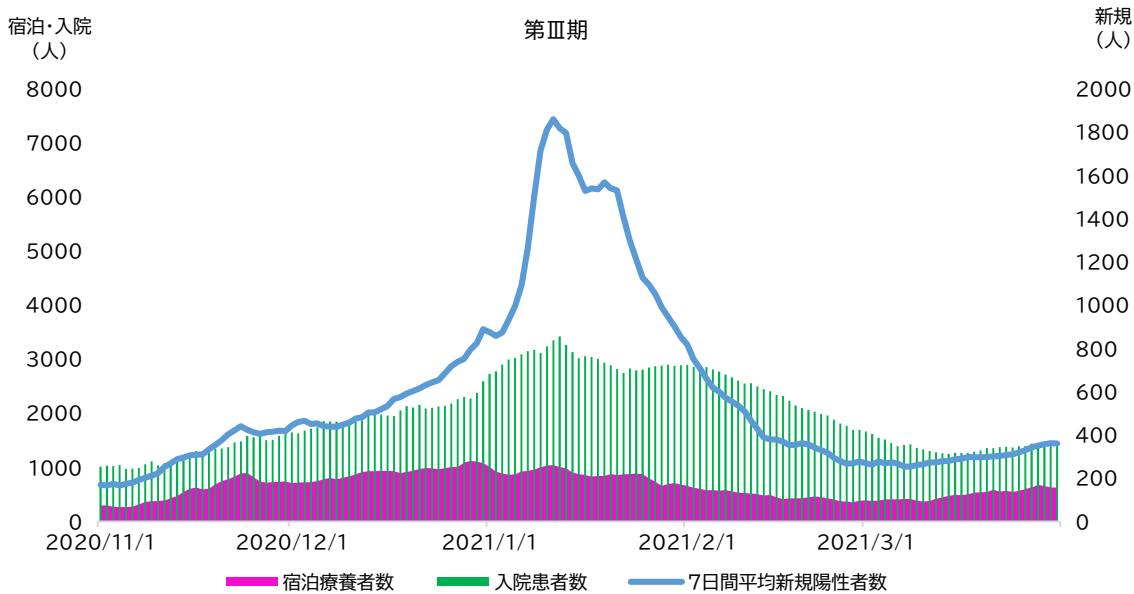


図3

2.4 第Ⅳ期 令和3年4月～10月

(うち第4波 令和3年4月～令和3年6月 第5波 令和3年7月～10月)

2.4.1 感染状況と主な対策(第4波 令和3年4月～6月)

東京

最大感染者数:1,126人(5/8)
新規陽性者数(累計): 52,923人
死者数(累計): 464人

全国

最大感染者数:7,244人(5/8)
新規陽性者数(累計):324,133人
死者数(累計):5,617人
(累計期間: 令和3年4月1日～令和3年6月30日)

政府の緊急事態宣言

4月25日～6月20日

まん延防止等重点措置

4月12日～4月24日

6月21日～7月11日

事業者への休業・時短要請

4月25日～6月20日

6月21日～7月11日

事業者への時短要請 (11月28日～)

4月～4月24日

10月1日～10月24日

コロナ病床5,594床

(重症373床、中等症5,221床)確保

宿泊療養施設の拡大(5,708室)

高齢者への接種開始(4月12日～)64

歳以下接種開始(6月～)

中和抗体薬治療コールセンターを開設

2.4.2 概況 (第4波 令和3年4月～令和3年6月)

第4波では、それまでの株より感染力の強い変異株(アルファ株)の発生により、若い世代を中心に感染が拡大した。病院、有料老人ホーム、通所介護施設等、大学の運動部の寮などで、クラスターが発生した。都は、3度目の緊急事態措置に対応する中、高齢者へのワクチン接種を開始し、大規模接種会場を開設した。

2.4.3 感染状況と主な対策(第5波 令和3年7月～10月)

東京

最大感染者数: 5,908人(8/13)

新規陽性者数(累計):207,704人

死者数(累計): 913人

全国

最大感染者数:25,975人(8/20)

新規陽性者数(累計):919,712人

死者数(累計):3,484人

(累計期間: 令和3年7月1日～令和3年10月31日)

政府の緊急事態宣言

7月12日～9月30日

まん延防止等重点措置

6月21日～7月11日

リバウンド防止措置

10月1日～10月24日

事業者への休業・時短要請

6月21日～7月11日

7月12日～9月30日

事業者への時短要請

10月1日～10月24日

コロナ病床6,651床(重症503床、中等症6,148床)確保

東京都健康長寿医療センターの確保病床:58床(令和3年9月7日～10月14日)

宿泊療養施設の拡大(6,546室)

入院待機ステーション、酸素・医療提供ステーションを開設
重症化を防ぐ抗体カクテル療法の活用を推進
オンライン診療による医療支援を開始
療養者への処方薬の配送等を行う薬局への支援開始

2.4.4 概況(第5波 令和3年7月～

10月)

第5波では、重症化リスクの高い変異株(デルタ株)への置き換わりが急速に進行したことにより、救急医療がひっ迫した。高齢者のワクチン接種が進んだこともあり、中高年層や若年層への感染が拡大した。

都はワクチン接種の加速化を図るとともに、酸素・医療提供ステーションを開設するなど、患者を確実に受け入れるための医療提供体制を強化した。また、オンライン診療による医療支援など、自宅療養体制の強化を進めた。

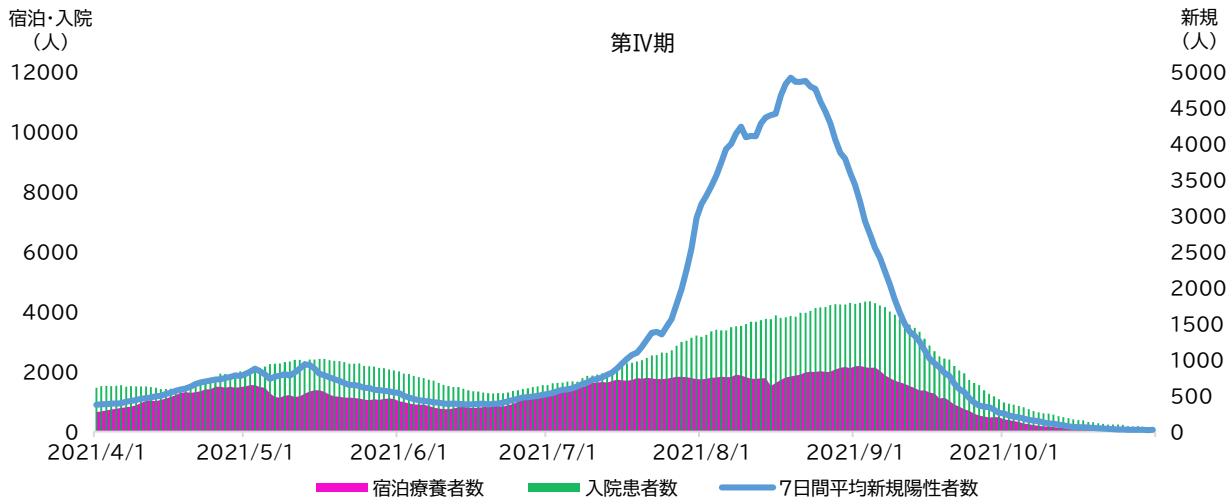


図4

2.5 第V期 令和3年11月～令和4年5月(うち第6波 令和4年1月～5月)

2.5.1 感染状況と主な対策

東京

最大感染者数: 21,562人(2/2)
新規陽性者数(累計):1,157,157

人

死者数(累計): 1,327人

全国

最大感染者数:104,520人(2/1)
新規陽性者数(累計):6,854,217人

死者数(累計):12,317人

(累計期間:令和4年1月1日～令和4年5月31日)

基本的対策徹底期間

10月25日～1月10日

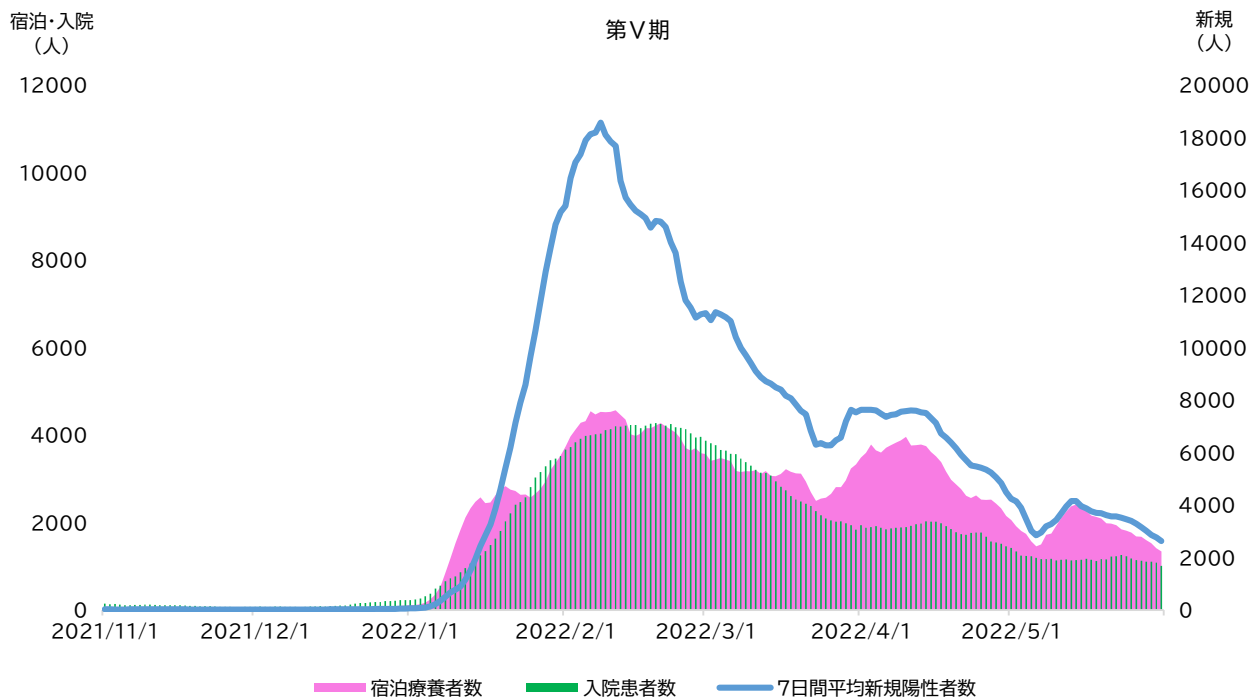


図5

オミクロン株の急速拡大に伴う緊急対応
1月11日～1月20日
まん延防止等重点措置

1月21日～3月21日
リバウンド警戒期間

3月22日～5月22日
事業者への時短要請

1月21日～3月21日
コロナ病床7,229床

(重症510床、中等症6,719床)確保
宿泊療養施設の拡大(最大12,601室)
(高齢者等医療支援型、妊婦支援型)で
受入開始

感染拡大時療養施設を整備

高齢者施設への往診・施設内療養体制
の構築

自宅療養者への往診体制の強化

自宅療養者フォローアップセンターの体制
拡充

自宅療養サポートセンター(うちさぼ東京)
の開設(1月31日)

2.5.2 概況

第6波では、これまでで最も感染力の強い変異株(オミクロン株)により、新規陽性者が急激に増加し、家庭内感染により、子供、重症化リスクの高い高齢者への感染が拡大した。そうした中、病院

や社会インフラを担う業種において、感染や、濃厚接触による欠勤者が増加し、社会活動に大きな影響を与えた。

相談・検査体制の充実、迅速な病床の確保を行うとともに、自宅療養者を支援する、うちさぼ東京の新設や、自宅療養者への往診体制を強化した。

2.6 第VI期 令和4年6～9月(うち第7波 令和4年6月～9月)

2.6.1 感染状況と主な対策

東京

最大感染者数: 40,395人(7/28)

新規陽性者数(累計):

1,627,928人

死者数(累計): 1,330人

全国

最大感染者数:261,004人(8/19)

新規陽性者数

(累計):12,428,467人

死者数(累計):14,204人

(累計期間: 令和4年6月1日～9月30日)

発生届の全数届出の見直し(9月26日)

東京都陽性者登録センターの開設(8月3日)

コロナ病床7,262床

(重症420床、中等症6,842床)確保
(令和4年9月)

東京都健康長寿医療センターの確保病床:58床(令和4年1月24日～7月13日)

宿泊療養施設、感染拡大時療養施設の拡大(最大約 13,000室)

2.6.2 概況

オミクロン株の亜種BA.2より感染性が高いとされるオミクロン株BA.5への置き換わりが進み、新規陽性者数が過去最大となった。医療従事者の欠勤等により、十分に人員を配置できない状態が長期化した。

令和4年9月に国は「Withコロナに向けた新たな段階」へ移行する方針を示し、発生届の対象を高齢者等に限定し、保健医療体制の重点化を進めた。原則として行動制限を行わず、重症化リスクのある高齢者などへの対策に重点を置き、感染拡大と社会経済活動を両立させる局面へ移行した。

第7波では過去最高の新規陽性者が発生する中、高齢者等医療支援型施設を拡大する等、高齢者等の療養体制を強化した。

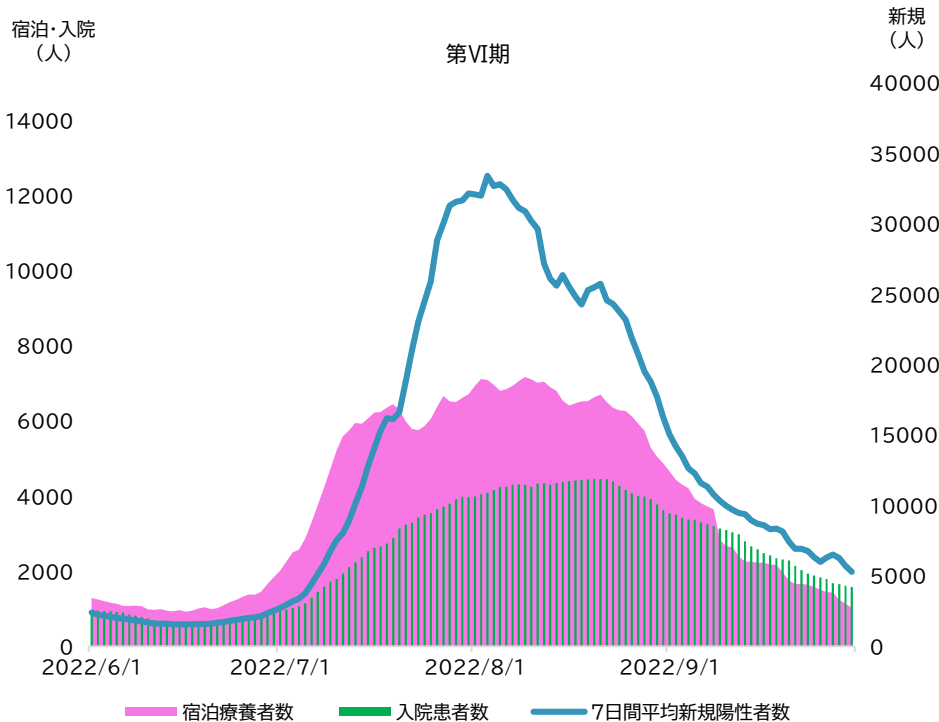


図6

2.7 第Ⅶ期 令和4年10月～令和5年5月(うち第8波(令和4年10月～令和5年1月))

2.7.1 感染状況と主な対策

東京

最大感染者数: 22,063人
(12/27)

新規陽性者数(累計):
1,218,759人

死者数(累計): 2,294人

全国

最大感染者数:246,751人(1/6)

新規陽性者数(累計):
12,527,456人

死者数(累計):29,788人

(累計期間: 令和4年10月1日～令

和5年5月8日)

新型コロナウイルス感染症が5類感染症(5月8日)

コロナ病床7,231床

(重症383床、中等症等6,848床) 確保[最大確保病床7,477床](令和4年12月)

宿泊療養施設の確保(約13,000室)

感染拡大時療養施設(立飛・高松)を宿泊療養施設に転換(12/1～)

高齢者等医療支援型施設の設置拡大(青山、足立東和、八王子めじろ台、府中、滝野川)、機能強化(渋谷で救急受入開始、赤羽の高齢者への対応力強化)

自宅療養者フォローアップセンターの

体制強化(最大800名体制)

自宅療養サポートセンター(うちさぼ東京)の体制強化(450回線)

2.7.2 概況

第8波では、行動制限のない年末年始を迎え、人流は新型コロナ流行後、最も高い水準に到達した。都は、インフルエンザとの同時流行に備え、過去最大規模の患者数を想定し保健・医療提供体制を強化した。

令和5年5月8日に国が新型コロナウイルス感染症を5類感染症に位置付けたことにより、医療提供体制の移行を段階的に進めていくこととした。

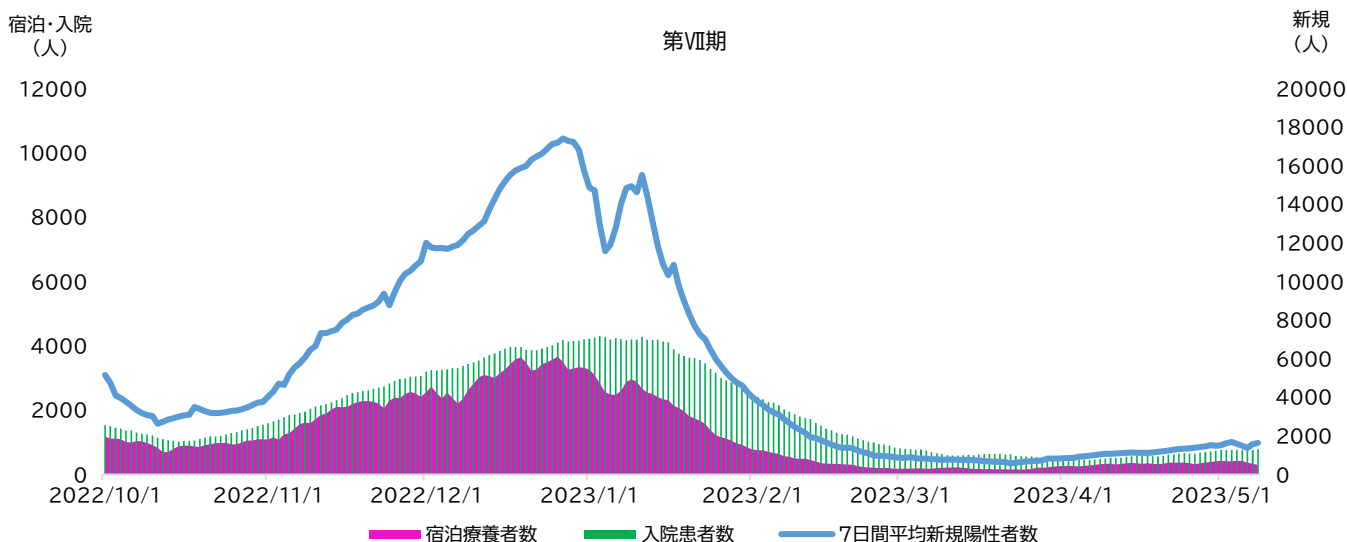


図7

3.1 まとめ

以上、第Ⅰ期から第Ⅶ期までの感染状況、国及び東京都の取組、社会の状況などを記載し新規感染者数と入院患者数及び宿泊療養施設入所者数の推移をグラフ化し、それぞれの流行期における概況を整理した。

都は、第Ⅰ期の令和2年4月、国内初となる宿泊療養施設を中央区内に開設し、運営を開始し、計5施設の運営を行った。総部屋数2,865室、総受入可能室数1,200室の体制を同年6月末まで維持した。東京都健康長寿医療セ

ンターは、宿泊療養施設の開設直後の令和2年4月15日から看護師を中心とした運営支援を開始し、令和5年3月3日まで継続して実施してきた。この間に運営支援を行った看護師の延べ人数は4,314人である。

後日、こうしたことから、コロナ患者の重点医療機関として、中等症及び重症患者の外来、入院受け入れ(最大確保病床58床)を積極的に行ってきたことと併せて、東京都の新型コロナウイルス感染症対策に多大な貢献があったとして、小池百合子東京都知事から感謝状を

いただいている。

令和4年7月、宿泊療養施設の入所条件から一律の年齢制限を撤廃したことなども影響し、第Ⅴ期からは、宿泊療養施設入所者が入院患者数を上回るようになり、宿泊療養施設が医療提供体制のひっ迫を防ぐ重要な役割を担ってきたことは明白である。

次なる脅威に向けた準備を進めるうえでも、東京都における宿泊療養施設のノウハウの記録、効果検証が望まれる。